

看護学部看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	10	1年生 年間予定表
1年	41	基礎看護技術Ⅱ
1年	43	基礎看護技術Ⅲ
1年	48	基礎看護学実習Ⅰ
1年	49	基礎看護学実習Ⅱ
2年	79	小児看護学援助方法
2年	82	母性看護学援助方法
2年	94	地域・在宅看護学実習Ⅰ
2年	95	領域横断看護実習

2025年度 看護学科1年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月				1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 オリエンテーション	8 1	9 健康診断 1	10 1	11 1	12	
	13	14 1	15 2	16 2	17 2	18 2	19	
	20	21 2	22 3	23 3	24 3	25 3	26	
	27	28 3	29	30 4	1 4	2 4	3	
5月	4	5	6	7 5	8 5	9 5	10	
	11	12 4	13 4	14 6	15 6	16 6	17	
	18	19 5	20 5	21 7	22 7	23 7	24	
	25	26 6	27 6	28 8	29 8	30 8	31	
6月	1	2 7	3 7	4 9	5 9	6 9	7	
	8	9 8	10 8	11 10	12 10	13 10	14	
	15	16 9	17 9	18 11	19 11	20 11	21	
	22	23 10	24 10	25 12	26 12	27 12	28	
	29	30 11	1 11	2 13	3 13	4 13	5	
7月	6	7 基礎看護学実習 I	8 基礎看護学実習 I	9 基礎看護学実習 I	10 基礎看護学実習 I	11 基礎看護学実習 I	12	
	13	14 12	15 12	16 14	17 14	18 14	19	
	20	21	22 13	23 15	24 15	25 15	26	
	27	28 定期試験	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2	
8月	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18 不合格者発表	19	20	21	22	23	
	24	25 再試験	26 再試験	27 再試験	28 再試験	29	30	
	31	1	2	3	4	5	6	
9月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22 オリエンテーション	23	24 1	25 1	26 1	27	
	28	29 1	30 1					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 看護学科1年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土					
10月					1	2	2	2	3	2	4		
	5		6	2	7	2	8	3	9	3	10	3	11 (保護者会)
	12		13		14	3	15	4	16	4	17	4	18
	19		20	3	21	4	22	5	23	5	24	5 <small>せいよう祭準備</small>	25 せいよう祭
	26		27	4	28	5	29	6	30	6	31	6	1
11月	2		3		4	6	5	7	6	7	7	7	8
	9		10	5	11	7	12	8	13	8	14	8	15
	16		17	6	18	8	19	9	20	9	21	9	22
	23		24		25	9	26	10	27	10	28	10	29
	30		1	7	2	10	3	11	4	11	5	11	6
12月	7		8	8	9	11	10	12	11	12	12	12	13
	14		15	9	16	12	17	13	18	13	19	13	20
	21		22	10	23	13	24	14	25	14	26	14	27
	28		29		30		31		1		2		3
1月	4		5	11	6	14	7	15	8	15	9	15	10
	11		12		13	15	14	月12	15	月13	16	月14	17
	18		19	定期試験	20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	定期試験	24
	25		26		27		28		29		30		31
2月	1		2	基礎看護学実習Ⅱ	3	基礎看護学実習Ⅱ	4	基礎看護学実習Ⅱ	5	基礎看護学実習Ⅱ	6	基礎看護学実習Ⅱ	7
	8		9	基礎看護学実習Ⅱ	10	基礎看護学実習Ⅱ	11		12	基礎看護学実習Ⅱ	13	基礎看護学実習Ⅱ	14
	15		16	基礎看護学実習Ⅱ 不合格者発表	17		18		19		20		21
	22		23		24	再試験	25	再試験	26	再試験	27		28
3月	1		2		3		4		5		6		7
	8		9		10		11		12		13		14
	15		16		17	(卒業式)	18		19		20		21
	22		23		24		25		26		27		28
	29		30		31								

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa05				
			●							
科目名	基礎看護技術Ⅱ				単位認定者	竹田 理恵		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	20 %
							授業時間数		60 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			30 回	
授業の概要	看護実践の基礎となる基本的な日常生活援助技術の修得を目指す。具体的には、生活環境、活動と休息、清潔と衣生活、食事と排泄を整える知識と技術を学ぶ。また、リスクマネジメント・安全確保等の知識と技術についても併せて学修し、科学的根拠に基づく看護の基礎的知識と実践能力を演習を通して身につける。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境調整に関する看護上の意義を理解し、環境調整に関連した技術を修得する。 2. 活動と休息に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 3. 清潔と衣生活に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 4. 食事に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 5. 排泄に関する援助の基礎知識を理解し、関連する日常生活援助技術を習得する。 6. 看護技術向上のために、自己目標を立てて臨み、演習後は振り返りができる。 									
学修者への期待等	身だしなみを整える、時間やルールを守る、事前・事後学修を主体的に行う、グループメンバーと協力するなど、授業をとらして看護学生として必要な態度を身につけることを期待しています。演習には指定のユニフォーム、シューズ、ナースウォッチ、クリップボード、メモ帳、ヘアゴム(必要時)等が必要です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	環境調整：援助の基礎知識				教科書② 第1部1章・2章を読む(1時間)			佐藤 由記子		
2	環境調整：援助の方法 (ベッドメイキング ベッド周囲の環境整備)							佐藤 由記子		
3	環境調整の実際「ベッドメイキング① デモンストレーション・実習室ガイダンス」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖		
4	環境調整の実際「ベッドメイキング② ベッドメイキングの実施方法」：グループワーク									
5	環境調整の実際「ベッドメイキング③ リネン類の交換、シーツ交換」：グループワーク									
6	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備① デモンストレーション、基本的な方法」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)					
7	環境調整の実際「ベッド周囲の環境整備② 事例検討」：グループワーク									
8	活動・休息：基本的活動の援助				教科書② 第2部7章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
9	活動・休息：睡眠・休息の援助				教科書② 第2部8章を読む(1時間)			佐藤 清湖		
10	活動・休息の援助の実際「体位変換・歩行介助」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子		
11	活動・休息の援助の実際「移乗・移送」：グループワーク									
12	清潔・衣生活：援助の基礎知識				教科書② 第2部9章を読む(1時間)			竹田 理恵		
13	清潔・衣生活：援助の方法 (手浴 足浴とフットケア 陰部洗浄)							竹田 理恵		
14	清潔・衣生活の援助の実際「足浴とフットケア」：グループワーク				講義で学修した内容を復習し、事前課題に取り組む(30分) さらに、事後課題に取り組む提出する(30分)			竹田 理恵 佐藤 由記子 二口 尚美 佐藤 清湖		
15	清潔・衣生活：病床での衣生活の援助				教科書② 第2部9章を読む(30分)			佐藤 清湖		

回	授業計画	準備学修	担当
16	清潔・衣生活の援助の実際「病衣・寝衣の交換」： グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子
17	清潔・衣生活：援助の方法（口腔ケア）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
18	清潔・衣生活：援助の方法 （入浴 シャワー浴 全身清拭）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	佐藤 由記子
19	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭① デモン ストレーション・使用物品の使い方」：グループワ ーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵
20	清潔・衣生活の援助の実際「全身清拭② 全身清拭 の実施方法」：グループワーク	さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	二口 尚美 佐藤 清湖
21	清潔・衣生活：援助の方法（洗髪 整容）	教科書② 第2部9章を読む（30分）	竹田 理恵
22	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪① デモンスト レーション・使用物品の使い方」：グループワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分）	竹田 理恵 二口 尚美
23	清潔・衣生活の援助の実際「洗髪② 洗髪の実施方 法」：グループワーク	さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 由記子 佐藤 清湖
24	食事：援助の基礎知識 食事摂取の介助	教科書② 第2部5章を読む（1時間）	佐藤 由記子
25	食事：摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助		佐藤 由記子
26	食事の援助の実際「食事摂取の介助」：グループ ワーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分） さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 由記子 竹田 理恵 二口 尚美 佐藤 清湖
27	排泄：自然排尿および自然排便の基礎知識	教科書② 第2部6章を読む（1時間）	竹田 理恵
28	排泄：自然排尿および自然排便の介助の方法（おむ つによる排泄援助）		竹田 理恵
29	排泄の援助の実際「床上排泄援助」：グループワ ーク	講義で学修した内容を復習し、事前 課題に取り組む（30分）	竹田 理恵 二口 尚美
30	排泄の援助の実際「おむつによる排泄援助」：グ ループワーク	さらに、事後課題に取り組む提出す る（30分）	佐藤 由記子 佐藤 清湖
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版		
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、浜野圭 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 11, 14, 16, 19, 20, 22, 23, 26, 29, 30回） *授業内課題は、演習レポート課題（25%）、確認テスト（5%）で評価し、授業内で総括して フィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMa06				
			●		●					
科目名	基礎看護技術Ⅲ				単位 認定者		試験（筆記）	50 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	試験（技術）	20 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	看護実践の基礎となるヘルスアセスメント技術の修得を目指す。具体的には、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメント等の知識と技術を学ぶ。ヘルスアセスメントの意義、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメントといった症状・生体機能管理技術を学ぶことにより、科学的根拠に基づく看護の基礎的技術を身につける。									
到達目標	1.ヘルスアセスメントに必要なバイタルサイン測定、フィジカルアセスメントの技術を理解し、実施できる。 2.看護技術の向上に向けて、振り返りや自己のもつ課題、改善課題を説明できる能力を身につける。									
学修者への期待等	フィジカルイグザミネーションには五感を活用する。人体の構造と機能の知識をもとに正確・安全・安楽に実施できる技術を修得してほしい。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	ヘルスアセスメント				【事前】「事前課題」を作成する。教科書①「第2部」を読む（30分）					
2	フィジカルアセスメント バイタルサインの観察とアセスメント				教科書①「第3部」を読む（30分）					
3	バイタルサイン測定① 血圧計、体温計、聴診器の使い方：実技、グループワーク				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）		二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
4	バイタルサイン測定② 血圧測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
5	バイタルサイン測定③ 体温、脈拍、呼吸の測定：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
6	バイタルサイン測定④ 正確な測定の方法と一連の技術実施、アセスメント：実技、グループワーク				【事前】教科書②「バイタルサイン」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
7	計測の実際：グループワーク				【事前】教科書②「身体計測」を読む（30分）					
8	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“腹部、感覚器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）		佐藤 清湖			
9	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“筋・骨格系、神経系”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）		佐藤 清湖			
10	フィジカルアセスメント① 腹部、筋・骨格系、感覚器、神経系：実技、グループワーク				【事前】教科書②「頭頸部のアセスメント」、「腹部のアセスメント」、「乳房と腋窩のアセスメント」、「直腸・肛門・生殖器のアセスメント」、「脳・神経系のアセスメント」、「筋・骨格系のアセスメント」、を読む（60分）、動画視聴（10分）		佐藤 清湖 二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子			
11	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“呼吸器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
12	フィジカルアセスメント 系統別フィジカルアセスメント“循環器”				【事前】教科書①「第3部」を読む（30分）、動画視聴（10分）					
13	フィジカルアセスメント② 呼吸器系、循環器系：実技、グループワーク				【事前】教科書②「呼吸器系のアセスメント」、「循環器系アセスメント」を読む（30分）、動画視聴（10分）		二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
14	心理・社会状態のアセスメント				【事前】教科書①「第2部」、教科書②「フィジカルアセスメント総論」を読む（30分）		佐藤 清湖			
15	ヘルスアセスメントの実際：グループワーク				【事前】第1回から第14回までの教科書①②、参考書および動画視聴内容を復習する（30分）		二口 尚美 竹田 理恵 佐藤 由記子 佐藤 清湖			
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	『フィジカルアセスメントと画像の図鑑』後藤順一他編、南江堂 『はじめてのフィジカルアセスメント』横山美樹著、メジカルフレンド社									
備考	*非常勤助手：高栖希美子、橋本久子、浜野圭 *演習はA・Bの2クラス編成で行う。（第3, 4, 5, 6, 7, 10, 13, 15回） *基礎看護学実習室のほか、シミュレーションセンターを活用する。 *授業内課題はレポート（10%）、確認テスト（10%）、学習カード（10%）で評価し、授業の中でフィードバックする。 *この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj01				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習 I				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		40 時間	情意領域 (態度)
						授業回数	集中			
授業の概要	病院や地域における看護実践活動を見学し、看護の対象としての人間と看護の場、看護の役割や機能の実際について理解を深める。また、各健康段階にある生活者とコミュニケーションをとり、看護の対象としての人について身体的・心理的・社会的・文化的側面を理解し、看護実践能力の基盤を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康生活を支える活動の場（施設・病院）の環境を知ることができる。 2. 利用者・患者の思いに関心に向け、対象理解をすると共に、人間関係構築の重要性がわかる。 3. 看護実践活動を見学し、看護がどのように実践されているのかがわかる。 4. 看護学生として責任ある態度で行動し、自己の課題がわかる。 									
学修者への期待等	臨地での見学や体験を通して、看護の対象を理解し、看護の魅力や難しさ等を発見して、自身が看護を学ぶ動機を明確にし、学修意欲つながらることを期待する。									
授業計画					準備学修					
I. 実習期間 1週間 II. 実習施設 病院 老人福祉センター III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、患者の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。 2) 看護師の行う援助を見学し、看護の役割や機能について学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. 老人福祉センター 1) 利用者とのコミュニケーションを通して健康を支える活動について理解を深める。 2) 活動の場の環境を知ることができる。 4. 実習のまとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して看護の対象、役割や機能について理解を深める。					【事前】 ・実習の事前学習では、実習上で必要な基礎的な看護技術としての手指衛生、標準予防策に基づく個人防護具の着脱、コミュニケーション技術、環境整備、ベッドメイキング、配膳について授業内容を復習してから実習に臨むこと。（1～3時間程度） ・学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。					
教科書	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版									
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア 『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所編、メディックメディア その他オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	*ループリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、阿部春美、岡崎優子、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、伊藤茉莉子、佐藤由記子、遠藤美穂子、岡崎草代夏、東海林美幸、泉田さとみ、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、非常勤助手：江口美知子、橋本久子、浜野圭、杉山真理子 ※この科目は基礎看護学実習Ⅱの履修要件となっている。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj02				
	●	●	●	●	●					
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位認定者	木下 美佐子		認知領域 (知識)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	20 %
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間	情意領域 (態度)
				授業回数		集中				
授業の概要	患者の療養環境を理解し、健康問題を持つ対象理解に向けた情報を収集した上で、日常生活における問題を論理的に捉え援助することを学ぶ。また、対象者のニーズを捉え、情報の持つ意味を考えた看護計画を立案し、適切な看護が実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 受け持ち患者の情報を収集・把握してアセスメントができる。 受け持ち患者の看護計画が立案できる。 受け持ち患者の看護計画に沿って、援助できる。 看護過程の重要性が理解できる。 看護学生として責任ある態度で行動できる。 									
学修者への期待等	学内で学んだ看護学概論、看護倫理、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護過程および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、患者理解が深まる積極的な姿勢で、実習に臨むことを期待する。									
授業計画					準備学修					
I. 実習期間 2週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) オリエンテーションで実習の全体を把握する。 2) 事前学修、技術の再確認を行う。 3) 受け持ち患者の看護過程に関するカンファレンスを行う。 4) 実習の振り返りを行う。 2. 病院 1) 患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 2) 看護過程の展開を通し、適切な援助方法を学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通し、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. まとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」についての自分の考えを深める。 2) 実習に臨む態度を振り返り、今後の課題を明確にする。					【事前】 ・実習の事前学習では、実習要項にある「学生が実施できる看護技術」に記載のある基礎的な看護技術について授業内容を復習してから実習に臨むこと。(3時間程度) ・受け持ち患者に対して初めて看護過程を展開するので、展開に必要な既習の専門基礎科目、専門科目についても復習しておくこと。(3時間程度) ・学生オリエンテーション、実習記録の配布時間を別途開講するので必ず参加し、実習準備を整えること。					
教科書	①『看護がみえる4 看護過程の展開』医療情報科学研究所編、メディックメディア ②『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所編、メディックメディア									
参考文献	①『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 ②『ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ』松尾ミヨ子他編、メディカ出版 その他、オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する									
備考	＊ルーブリック評価表を用いて、認知、精神運動、情意領域を評価する。 担当：木下美佐子、高橋由美、桑田恵美子、阿部幹佳、菅原尚美、二口尚美、竹田理恵、佐藤由記子、岡崎草代夏、坂村佐知、東海林美幸、佐藤清湖、小倉真紀、遠藤理加、 非常勤助手：江口美知子、橋本久子、佐々木ゆみ子、大石慶子、松田郷子、赤間美恵子、海老原佐智代									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMe03			
●									
●									
科目名	小児看護学援助方法				単位 認定者	武田 美奈子 岡崎 草代夏		試験（筆記） 60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題 40 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	小児の健康障害の種類と段階に応じた援助方法を学修する。また、特殊な状況でのアセスメントの視点やプレバレーションの意義と目的について学ぶ。小児看護学援助論の学修を踏まえ、小児特有の援助技術の方法を学び、演習を通して小児看護の基礎的な実践能力を身につける。								
到達目標	1. 小児の健康障害の種類と段階に応じた経過、特殊な状況によって生じる問題を理解し、その援助方法が説明できる。 2. 知識を統合として事例をもとにアセスメントを行い、子どもとその家族に対しての看護が考えられる。								
学修者への期待等	この科目は看護を実践するための方法論を学ぶ科目です。小児看護学概論・小児看護学援助論の知識が関連してくるため、事前学習とともに復習も含め準備して臨んで下さい。								
回	授業計画				準備学修		担当		
1	子どもの入院と看護、外来における看護				【事前】教科書[1] 総論 第1章・第2章を予習して臨む（30分以上）		佐藤 幸子		
2	慢性期にある子どもとその家族への看護（呼吸器、アレルギー、内分泌疾患、腎疾患のある子どもと家族の看護）				【事前】教科書[1] 総論 第3章 Aを予習して臨む（30分以上）		佐藤 幸子		
3	急性期にある子どもとその家族への看護（肺炎、髄膜炎、急性腹症の子どもと家族の看護、一次救急含む）				【事前】教科書[1] 総論 第3章 Bを予習して臨む（30分以上）		佐藤 幸子		
4	周手術期にある子どもと家族の看護（総論）				【事前】教科書[1] 総論 第3章 Cを予習して臨む（30分以上）		岡崎 草代夏		
5	周手術期にある子どもと家族の看護（先天性心疾患、消化器疾患、ヘルニアの子どもと家族の看護）				【事前】教科書[1] 総論 第3章 Cを予習して臨む（30分以上）		岡崎 草代夏		
6	終末期にある子どもと家族の看護（小児がんの子どもと家族の看護）				【事前】教科書[1] 総論 第3章 Dを予習して臨む（30分以上）		岡崎 草代夏		
7	ハイリスク新生児と看護（先天異常・遺伝病 新生児疾患の子どもと家族の看護）				【事前】教科書[2] 第1・2章を予習して臨む（30分以上）		武田 美奈子		
8	在宅における子どもと家族の看護（神経筋疾患、染色体異常の子どもと家族の看護）				【事前】教科書[1] 総論 第2章 C、第7章を予習して臨む（30分以上）		武田 美奈子		
9	子どもへの感染症と看護				【事前】教科書[2] 第6章を予習して臨む（30分以上）		武田 美奈子		
10	災害を受けた子どものケア（ASD、PTSD等メンタルケアを含む）				【事前】教科書[1] 総論 第2章 Dを予習して臨む（30分以上）		武田 美奈子		
11	子どもへのプレバレーションの実施（グループワーク・演習）				【事前】教科書[1] 動画一覧 M①を視聴して臨む（30分程度）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
12	看護過程の展開① セルフケア理論の理解				【事前】1年次看護過程論で学習した内容を復習して臨む（30分以上）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
13	看護過程の展開② 事例展開の方法				【事後】授業内課題に取り組む（90分以上）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
14	看護過程の展開実技① 事例を使ってグループワーク（患児のアセスメント）				【事前】授業内課題に取り組む（90分以上）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
15	看護過程の展開実技② グループワーク内容の発表（患児のアセスメント） 看護過程の展開のまとめ				【事後】グループワーク・解説を聴き自己のレポートに補足を加える（60分以上）		武田 美奈子 岡崎 草代夏		
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論』 奈良間美保他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』 奈良間美保他著、医学書院								
参考文献	『エビデンスに基づく小児看護ケア関連図』山口桂子他編、中央法規 『根拠と事故防止からみた小児看護技術』浅野みどり編、医学書院 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学①：小児の発達と看護』中野綾美編、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ 小児看護学②：小児看護技術』中野綾美編、メディカ出版								
備考	第1～10回、12、13回は、講義形式で行う。 授業内課題は、レポート課題（30%）、授業後感想（10%）で評価し、適宜フィードバックする。 非常勤助手：海老原佐智代								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

- ・看護師としての実務経験を活かし、子どもの病棟・外来における看護、慢性期・急性期にある子どもとその家族への看護の実践方法について教授する（佐藤）。
- ・看護師として病院や療育センターで培った実務経験を活かし、ハイリスク新生児、在宅、感染症、災害を受けた子どものケア等、小児看護の実践方法について教授する（武田）。
- ・看護師としての実務経験を活かし、子どもと家族の看護を実践するために必要な知識・技術・態度について教授する（岡崎）。

学修成果	1	2	3	4	5
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力
			●		●

科目ナンバリング
NSMf03

科目名	母性看護学援助方法				単位 認定者	田辺 圭子		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
							授業回数	15 回		
授業の概要	周産期にある女性とその家族を対象に、発達課題や健康上の諸問題に焦点を当て、より良い健康生活を送れるようウェルネスの視点から看護を展開した援助方法を学修する。また、母性看護における特有な援助技術の修得のため、演習を通じて妊娠・分娩・産褥・新生児期に必要な看護技術と実践的なケア、母子保健活動の方法を学び、母性看護の基礎的な実践能力を身につける。さらに次世代の健全育成を目指した実践科学としての母性看護活動を理解する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児期の生理的な変化及び特徴について、対象のヘルスアセスメントができる。 2. 紙上事例をとおして情報を分析し、ウェルネス診断に基づいて計画立案までの看護過程の展開ができる。 3. 技術演習により、母性看護に特有な看護技術を修得できる。 									
学修者への期待等	母性看護学概論、母性看護学援助論で学んだ知識を統合し、母性看護学特有の看護技術に主体的に取り組むことで、具体的な援助技術を実践できるようになることを期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	母性看護に必要な技術：母性看護における看護過程				【事前】教科書 [1] の第4章のA・Bを読んで授業に臨む (30分程度)			田辺 圭子		
2	母性看護に必要な技術：情報収集・アセスメント技術				【事後】紙上事例を読み、アセスメント項目を挙げる			田辺 圭子		
3	事例による看護過程の展開 (事例の説明)、グループワーク① (妊娠期のアセスメント)				【事前】教科書 [2] の第3章のC、第5章のB、第6章のB、配布資料を読んで授業に臨む (1時間程度) 【事後】各期のアセスメントを完成する (各2~3時間程度)			田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
4	看護過程の展開 グループワーク② (産褥期のアセスメント)							田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
5	看護過程の展開 グループワーク③ (新生児期のアセスメント)							田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
6	妊産婦の看護に関わる技術と保健指導				【事前】教科書 [1] の第4章のCと [2] の第3章のD、第6章のDを読んで授業に臨む (1時間程度)			田辺 圭子		
7	褥婦と新生児に関わる技術と保健指導				それぞれの健康診査に関連する知識をまとめておくこと			田辺 圭子		
8	看護過程の展開 グループワーク④ (看護診断)				【事後】事例の看護診断を挙げ、看護計画を立案する (1~2時間程度)			田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
9	母性看護技術演習・看護過程演習オリエンテーション				【事後】母性看護技術演習に関連する動画を視聴する			田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
10	妊産婦のケア：レオポルド触診法・児心音聴取・妊婦体験				【事前】教科書 [2] や配布資料を用い、該当する母性看護技術に関する知識をまとめる・該当する演習の動画を視聴し、事前課題を行い演習に臨む (1時間程度) 【事後】演習課題レポートを作成する (1時間程度)			田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
11	褥婦のケア：子宮復古の観察・悪露、浮腫の観察							田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
12	褥婦・新生児のケア：抱き方と更衣・授乳姿勢と排気法							田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		
13	新生児のケア：新生児の観察と計測・清潔							田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知		

回	授業計画	準備学修	担当
14	看護過程の展開 グループ発表（前半グループ）	【事後】看護過程の課題レポートを作成する（1時間程度）	田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
15	看護過程の展開 グループ発表（後半グループ・まとめ）		田辺 圭子 佐藤 理恵 坂村 佐知
教科書	『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [1] 母性看護学概論』森恵美他著、医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [2] 母性看護学各論』森恵美他著、医学書院 『根拠と事故防止からみた母性看護技術』石村由利子編、医学書院		
参考文献	『ウェルネスからみた母性看護過程＋病態関連図』石村由利子他著、医学書院 『ウェルネスの視点にもとづく母性 看護過程』太田操他著、医歯薬出版株式会社 『病気がみえるVol.10 産科』医療情報科学研究所編、メディックメディア		
備考	第1回、2回、6回、7回は講義形式で授業を行う。 第6回・7回は実際に保健指導案作成を試みる。 第9回目は技術演習説明後に看護過程の展開 グループワーク⑤を実施する。 第10回、11回、12回、13回の技術演習はABの2クラス編成で行う（演習時には身だしなみをチェックする）。 演習の事前・事後課題は、指定された期日までに提出する（提出遅れは減点となる）。 授業内課題は、提出物（40%）と授業後の学びや感想（10%）で評価し、適宜フィードバックする。 非常勤助手：畑中晶子		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj03				
	●	●	●	●	●					
科目名	地域・在宅看護学実習 I				単位認定者	高橋 由美		認知領域 (知識)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	30 %
						授業時間数	40 時間		情意領域 (態度)	20 %
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、地域で暮らす人々と家族の生活環境と健康との関連をアセスメントし、対象者のニーズを把握する地区踏査・地区視診の実際を学ぶ。また、母子・成人・高齢者を対象とする保健・福祉の場における地域の人々の生活を理解し、健康状態について把握する実習を通して地域・在宅看護の基礎的な実践能力を修得する。									
到達目標	1. 地域に暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状と課題を理解することができる 2. 地域に暮らす様々な対象の活用可能な社会資源を理解することができる 3. 看護職を目指す学生として倫理観と責任を認識した行動ができる									
学修者への期待等	地域で暮らす様々な対象の生活環境や健康との関連をアセスメントし、地域・在宅看護の基礎的な実践能力を身に付ける実習です。これまで積み上げてきた学修を振り返り、主体的に臨みましょう。									
授業計画					準備学修					
I. 実習期間 1週間 II. 実習施設 老人福祉センター 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センター 母子支援施設 III. 実習計画 1. 学内実習 1) オリエンテーションで実習全体を把握し、事前学修を充分行い実習に臨む。 2. 臨地実習 1) 老人福祉センターの役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 2) 障害福祉サービス事業所または障害者小規模地域活動センターの役割機能を学び、利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3) 母子支援施設の役割機能を学び利用者とのコミュニケーションやフィールドワークを通して活用可能な資源について理解を深める。 3. まとめ 1) 学修成果を発表し学びを共有する。 2) 地域で暮らす様々な対象の健康と生活に関する現状や課題をまとめ、活用可能な社会資源について考察する。					【事前】地域・在宅看護学概論 I・II の授業内容を復習し、オリエンテーションで提示される課題に取り組む (2 時間程度)					
教科書	『ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』石田千絵他編、メディカ出版									
参考文献	『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会編、厚生労働統計協会 『看護師のための地域看護学』豊島康子編、ピラールプレス									
備考	担当：高橋由美、小林淳子、真溪淳子、東海林美幸、手塚有希子 非常勤助手：江口美知子									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	NSMj05				
	●	●	●	●	●					
科目名	領域横断看護実習				単位認定者	桑田 恵美子		認知領域 (知識)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	精神運動領域 (技術)	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間	情意領域 (態度)
							授業回数		集中	
授業の概要	これまで学んだ知識・技術・態度を基盤に、慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、問題解決の系統的アプローチによる情報収集、目標設定、看護計画立案、実施、評価までの一連の看護過程の展開と看護の実際を学ぶ。特に長期的に経過する健康障害や機能障害の特性及び精神的、社会的な影響を理解することを通して、各発達段階や健康段階に応用できる基礎的な看護実践能力を修得する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の看護過程が展開できる。 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。 									
学修者への期待等	長期的に経過する慢性的健康問題を持つ患者において、疾患そのものの治療のみではなく、規則正しい生活等、日常生活における自己管理について理解し、社会生活が送れるように支援することが求められる。領域横断実習を通して慢性的な健康問題を持つ患者・家族を多面的に理解し、看護役割を学ぶことを期待します。									
授業計画					準備学修					
I. 実習期間 3週間 II. 実習施設 病院 III. 実習計画 1. 学内 1) 実習オリエンテーション 2) 看護過程の展開と、受け持ち患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 病院 1) 学生1名で、主として成人期・老年期患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3. まとめ 1) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有し、看護について考えを深める。					【事前】 実習開始前に実習要項を十分読み、参加する。(1時間程度) 受け持ち患者・家族を理解するために必要な慢性疾患の病態・検査・治療・看護について学修する。(5時間程度) 受け持ち患者の看護に必要な看護技術を学修する。(3時間程度)					
教科書	既修科目の教科書									
参考文献	『成人看護学』黒田裕子編、医学書院 『看護学テキストNiCE 成人看護学 慢性期の看護』鈴木久美他編集、南江堂 『ナーシング・グラフィカ老年看護学①高齢者の健康と障害』堀内ふき他編著、メディカ出版 『ナーシング・グラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践』堀内ふき他編著、メディカ出版									
備考	担当：桑田恵美子、阿部春美、武田美奈子、阿部幹佳、岡崎優子、佐藤理恵、菅原尚美、伊藤茉莉子、岡崎草代夏、坂村佐知、遠藤美穂子、泉田さとみ、加藤真理子、小倉真紀 非常勤助手：佐々木ゆみ子、大石慶子、松田郷子、海老原佐智代、他1名									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--